

北信越 高校野球 県大会

第1ラウンド秋季北信越高校野球県大会(信濃毎日新聞社協賛)最終日は10日、長野オリンピックスタジアムで決勝と第3代表決定戦(3位決定戦)を行った。決勝は東京都市大塩尻が2-0で佐久長聖に勝り、2004年秋以来12年ぶりの優勝を飾った。都市大塩尻は旧校名の信州工、武蔵工大二時代と合わせて7度目の優勝。

都市大塩尻は0-0で迎えた八回に高田の連打一塁打で先制し、九回に杉本、吉田の長短打で1点を追加。左腕津山が佐久長聖を6安打完封した。第3代表決定戦は、松商学園が六回に武田の横飛で奪ったリードを右腕熊谷が守りきり、05年秋以来10年ぶり46度目の北信越大会出場を決めた。5県の代表16校が出場する北信越大会は23日から4日間、富山県の富山市民、魚津桃山、富山県営の3球場で開催する。組み合わせは15日に決まる。

都市大塩尻 12季ぶりV

左腕6安打完封

▽決勝
要員
000000012
守備
00000000000
【評】都市大塩尻の左腕津山が佐久長聖を完封した。走者を背負って自田の左越え二塁打で均衡二塁の好機も中軸が凡封。直球で内外角を突き、分のリズムを崩さず、三を破り、九回も無死二、二塁を踏み越えながら得点できず、粘りながら得点できず、粘りの投球を続けた右腕小林の好投に報いることができなかった。

100%前後の緩いカーブで打者のタイミングを狂わせ、120%の直球で詰ませる。都市大塩尻の左腕津山の投球リズムは最後まで変わらなかった。決勝の舞台で演じた1-7球の完封劇に「出来過ぎです」と、照れたような笑みを浮かべた。

歯車合い投手陣自責点0

津山を含め、3回戦で松本に0-2で惜敗した夏の経験者が7人。秋に向けた戦力は充実しているが、津山が練習試合で右足に自傷を負い、夏に背番号1をつけた左腕相原は左手首に打球を受け骨折。左の二枚看板が万全な状態ではなかった中、投手陣は準決勝で松商学園に、3位決定戦は松本第一に連敗した。

二人が離脱した間に右腕金子が台頭し、県大会前に津山が復帰。県大会に入り、少しずつ歯車がかみ合い始めた。4試合で自責点0という投手陣を中心に失点を最小限に抑え、好調な打線がもたらした。天理高(奈良)から日自分が何とかしたかった。カーブにヤマを張り、うまく打てた。

都市大塩尻・高田選手(八回二死一塁から先制二塁打)「4番の松原さんが送りバントをした後だったのでプレッシャーはあったが、津山さんも頑張っていたので自分が何とかしたかった。カーブにヤマを張り、うまく打てた」

都市大塩尻(神奈川)の監督経験もある新井監督は「県大会4試合で成長した。上の大会でもいい野球ができる」と思っていると、優勝校として臨む北信越大会に向けて自信を示した。

都市大塩尻(神奈川)の監督経験もある新井監督は「県大会4試合で成長した。上の大会でもいい野球ができる」と思っていると、優勝校として臨む北信越大会に向けて自信を示した。



佐久長聖打線を6安打完封した都市大塩尻の津山

選手	打	安	打	球
津山	4	3	3	4
小林	4	4	3	4
高田	1	0	0	0
松原	1	0	0	0
熊谷	1	0	0	0
武田	1	0	0	0
杉本	1	0	0	0
吉田	1	0	0	0
合計	16	7	6	2

選手	打	安	打	球
津山	4	3	3	4
小林	4	4	3	4
高田	1	0	0	0
松原	1	0	0	0
熊谷	1	0	0	0
武田	1	0	0	0
杉本	1	0	0	0
吉田	1	0	0	0
合計	16	7	6	2

選手	打	安	打	球
津山	4	3	3	4
小林	4	4	3	4
高田	1	0	0	0
松原	1	0	0	0
熊谷	1	0	0	0
武田	1	0	0	0
杉本	1	0	0	0
吉田	1	0	0	0
合計	16	7	6	2

選手	打	安	打	球
津山	4	3	3	4
小林	4	4	3	4
高田	1	0	0	0
松原	1	0	0	0
熊谷	1	0	0	0
武田	1	0	0	0
杉本	1	0	0	0
吉田	1	0	0	0
合計	16	7	6	2

選手	打	安	打	球
津山	4	3	3	4
小林	4	4	3	4
高田	1	0	0	0
松原	1	0	0	0
熊谷	1	0	0	0
武田	1	0	0	0
杉本	1	0	0	0
吉田	1	0	0	0
合計	16	7	6	2

無断転載禁止

著作権は信濃毎日新聞に帰属します

転載承認済

東京都市大学グループ

学校法人 五島育英会